

土木工学・建築学委員会（第25期・第6回）

議事録

1. 日 時：令和3年11月12日（金）10：00～12:00
2. 会 場：遠隔会議
3. 出席者：小林潔司、米田雅子、沖大幹、田辺新一、塚原健一、林春男、前川宏一、佐々木葉、竹内徹、小池俊雄、池田駿介、古谷誠章（下線欠席）出席 11 名

配布資料：

- 資料 1 インフラ高度化分科会活動報告
- 資料 2 IRDR 分科会活動報告
- 資料 3 気候変動と国土分科会活動報告
- 資料 4 脱炭素社会分科会報告
- 資料 5 Life & Education under COVID-19 (感染症分科会アンケート)
- 資料 6 IUTAM(理論応用力学)分科会報告
- 資料 7 環境学委員会合同会(脱炭素社会分科会)
- 資料 8 WFEO 分科会報告

議事：

1. 第5回議事録について確認された。今年度の分科会報告については新しいフォーマットで各分科会長に提出いただき、佐々木幹事のほうで取りまとめ提出することとした。
2. 分科会の活動状況について
 - ・資料1～8を用いて、各分科会の活動状況が紹介された。
 - ・資料1：インフラ高度化分科会活動報告について小林委員長より説明があった。分科会の下にWGを4つ設け、災害の激甚化、インフラ老朽化の課題にDX 技術を踏まえて提言の発出を目指す。学術フォーラムを来年3月に企画している。
 - ・資料2:IRDR分科会活動報告について、林委員より説明があった。International Center of Excellenceを申請し、10月19日の第26回IRDR SCで承認された。意思の表出については、気候変動・人口減少下において2035年前後に発生が予想される南海トラフ地震、首都直下地震を乗り越えるための対応を、地球物理や工学、人文社会科学等のグループが連携した提言として「21世紀前半に発生が確実視される国難級災害を乗り越えるためのレジリエンスの確保の在り方」を8月からタスクフォース会議で作成中。骨子がほぼ完成し、このテーマに関心を示す地球惑星防委員会社会貢献分科会(佐竹委員長)、災学術連携委員会(米田委員長)、インフラ高度化分科会(小林委員長)等と議論を開始する(林)。
どのように参加すればよいか(小林・米田)。タスクフォースに入っただけだと有難い(林)。防災減災学術連携体については、小池先生がタスクフォースに参加されているので、間に入っただきたい(米田)。
 - ・資料3:気候変動と国土分科会活動報告について、池田委員より説明があった。テーマが広範囲にわたって

いるが、流域治水、国土ビジョン、降雨流出・氾濫予測、防災まちづくりについて知見を有する方々のヒアリングを実施している。意思の表出については見解として提出予定。現在2つの小委員会が動いている。一つは佐賀の低平地、もう一つは耐水建築に関する小委員会で、土木と建築の協力下で進めている。例えば、洪水被災後に早期に復旧できる住宅などがある。

- ・資料5：感染症に学ぶ建築・都市・地域の再考分科会の活動状況と、SWG1で実施したアンケートについて竹内委員より報告があった。2020～21年度の感染症下の生活・働き方・教育について全世界33カ国80名に質疑を送り40名より回答を得た。生活や教育への影響については国・地域により多少差があるが、総じて働き方については大きく変化し、ポストコロナでもその変化は残るであろうという意見が多く見られる一方、逆に教育についてはオンラインの限界があり、コロナ後は対面に戻すべきという意見が多く見られた。先進国を中心に大都市から近郊への移動も報告されている。今後、国別の分析も進めたい。
- ・資料6：IUTAM（理論応用）分科会に関し、前川委員より紹介があった。日本側の窓口(岸本理事)を中心に、理論応用力学の領域拡大(自然災害、気象気候)、diversity+inclusionの推進(人材)をテーマに進めている。理論応用力学シンポジウム(オンライン)を2022年3月11日に、第66回理論応用力学講演会を2022.6.24～26に企画。また、総会を日本に招致すべく、委員の国際化、委員会の英語化を進めている。
- ・資料8：WFEO分科会について塚原委員より活動報告があった。2022年3月のWFEO年次総会にて塚原委員長がWFEO国別代表理事に立候補予定。次期会長はナイジェリアより信任投票。地域別理事は7名の空席に対し12名が立候補している。アジアからは中国から既に理事がいる。アメリカ・ドイツは候補を出していないが、英国・フランスは候補者を出している。
- ・資料7：環境学委員会合同会(脱炭素社会分科会)について田辺委員より説明があった。2022年3月18日に日本建築学会と共催あるいは学術会議後援で、住宅・建築・都市分野のカーボンニュートラルに関するシンポジウムを計画。提言については国主導で進んでいるので出版等の形で検討している。土木学会・建築学会間でMOUを結び共通のテーマ(流域治水、コンクリートの再利用など)で連携を始めている。
- ・都市・地域デザインの多様なアプローチ分科会では現在、構成員より話題提供を戴きながら出版などの形での意見の表出を検討している。

3. 令和4年度の予定について

- ・令和4年度第1回(全体会)：2022年5月16日(月)13:00～17:00
- ・令和4年度第2回：2022年8月8日(月)10:00～12:00
- ・令和4年度第3回：2022年11月25日(金)10:00～12:00

4. 構造工学シンポジウムについて

2022年4月16日に学術会議講堂の対面のオンラインを併用したハイブリッド方式で企画。

5. 公開シンポジウム「第34回環境工学連合講演会」について

2022年5月31日に学術会議講堂の対面のオンラインを併用したハイブリッド方式で企画。

6. 諸学会との学術連携について

当委員会と諸学会との学術連携報告については、田辺委員の方で補足して提出する。

7. 次回の予定について

2021年度第7回土木工学・建築学委員会を2022年3月17日(木)10:00～12:00に開催する。

以上